

# しんじゅうおへや

しんじやうおへや

そこは、日本に似た、ある国の、死刑執行室。

部屋の片隅、床から一本の丈夫そうなロープが天井へ向かって伸びている。そのロープは天井を伝って部屋の中央から垂れ下がり、その先は輪になつていて、その真下の床は九〇センチメートル四方に区切られ、下方へ向かって開く仕組みになっている。「踏み板」と呼ばれる場所。

部屋のやや奥側には部屋を仕切ることが出来るようカーテンが吊されている。そのカーテンの向こう側、一番奥の壁には3つのボタンが等間隔に設置されている。どうやら踏み板を開閉するためのスイッチになつてゐるらしい。また、壁際の床からは一本のレバーが飛び出でおり、それも3つのボタンと同様、踏み板を開閉するための装置だ。

第一話 回路

時間は午前一時を回ろうとしている。同日一〇時三〇分からの死刑執行に備えて予行演習をしている様子。

部屋には刑務官3名が立っている。処遇課長・小栗・係長・安岡、一般職員・谷田部である。

は、カーテンを開けて、進め。

小栗

カーテンが開くと、その向こうには私服姿の死刑役の刑務官・杉宇良と、それを脇で固める一般職員4名（甲村、能野、永瀬、柏木）がおり、前方へ進んでくる。杉宇良は白布で口以外の顔を隠され、手も後ろ手に手錠をかけられている。やがて、抵抗する演技を始める。

い！ やめろ！ 何でもするからやめてくれ！  
となしくしろ！ む！ どうしても最後に言つておきたいことがあるんだ！

願いだ！ 後生だ！  
更そんなこと言つても無駄だ！  
頼いだ！ 言わせてくれ！ 聞いてくれ！

かにしろ！  
の話を聞いてくれ！  
う遅い！

わせてやれ！  
めだ！  
ひから聞いてくれ！  
これを言い残したままじや死んでも死にきれないと

いだろ話をさせるくらい。  
りがとうございます！

にそれくらいの問題ないだろ。  
しかし、先ほど控え室の方で手紙も書き残させておりますし、それ以上のことは

速やかに任務を遂行しましよう。  
え。  
死刑囚がこの世に残していく言葉を、最後まで聞き届けることも、我々の任務ではないか。  
違うか、能野？





(周囲に当てつけるように) ……ほんつと、バカですね。

能野以外、笑うのを止める。

あはは……(笑っているのが自分だけなのに気づき) あ、すいません。

……ま、話の内容はさておき、対処としてはまあ、大体さつきの感じでいいんじゃないかな?

はい。

そうですか? あんまり話聞いてたりしたら、際限なくなりません?

だから甲村さんが言つたみたいに、2分とか3分とか、その程度の猶予を与えるならいいん

やないか?

そうですね。

僕は無駄だと思いますが。

猶予なあ……でも、

永瀬とまでは私は言わないですが、やはり速やかに遂行すべきだと思いますがね。猶予

……無駄とまでは私は言わないですが、やはり速やかに遂行すべきだと思いますがね。猶予

……無駄だと分かりますけどね……。

(小栗) どうしましようか?

……甲村の考えも分かるが、この部屋に入つたら速やかに執行するのが原則だ。わずかな時間であつても本人の希望で執行作業を遅らせるわけにはいかない。そこは無視すべきだと考

える。

……そうです、ね。

では、何を言われても無視と言うことで。

はい。

じゃあ、もう一回やるぞ。いい加減最後まで行くぞ。

まだやるんすか?

最後までスムーズに通せてようやく終わりだ。

すいません、今何時ですか?

現在、1時8分。

2時間以上になるな。さ、しつかりやるまで帰れんぞー。

(溜め息)

杉宇良さん、頼みますよ。

え、何を?

ちゃんと執行されてください。

ちーす。

死刑囚の気持ちでな。

いや、それは無理無理。

課長。

ん?

永瀬が少し疲れてきてるみたいなんで、私と役をチエンジさせていいですか?

え? いえ、大丈夫ですけど。

いいから。

はあ。

では、カーテンを開けて、進め。

冒頭と同じように、カーテンを開け、刑務官たちが登場する。

今度はすぐに杉宇良が抵抗し始める。

小栗

杉宇良

甲村

杉宇良

おい! やめろ! 何でもするからやめてくれ!

おとなしくしろ!

(激しく抵抗し始め) おとなしくするからやめろつて!

やめられるわけないだろ!

頼むからやめてつて! 死んじやうつて!

しんじゅうおへや  
～ 第一話 回路 ～

甲村 柏木 柏木 柏木  
杉宇良 杉宇良 杉宇良 杉宇良  
無理だ！ 暴れるな！  
いや、違う！ 脇！ 脇！ 左脇！  
え？  
ちよ、放して！ 一回放して！ マジで一回放して！  
（動搖しあの、課長、 一回放して！ マジで一回放して！  
おい！ 一旦、 放せ。 マジでお願いだから！

職員たち、杉宇良から手を放す。  
甲村、ニヤニヤと笑っている。

…………はあ……ちょっと、甲村！  
何だ。  
どさくさに紛れて脇くすぐるのやめろよ！  
お、ばれた？  
そりやばれるよ！  
おい、甲村あ！  
(笑いながら) 小栗課長、違うんですよ、これくらいやつた方が迫真の演技が見れると思つ

ま、確かに迫真だつたけどな。  
俺もマジで焦つたもん。  
俺も見ててちょっと焦つたよ。

谷田部一人、  
玄

いい加減にしませんか！

一同、静まる。

……何時間続けるつもりですか。  
……谷田部。

課長、いい加減にしましよう。

これ、何の予行演習でしたっけ？

四

……少し煮詰まってきたから休憩にしませんか？  
煮詰まつた？  
……では、5分だけ休憩をとろう。  
！ 小栗課長、  
休憩後、一発で決めよう。  
はい。  
では、休憩。

係長は。  
(かわすように) あ、じゃあ……私も、タバコ行つてきます。  
うん。

小栗と谷田部と安岡以外の人間は、ガヤガヤと部屋を出て行く。

小栗 谷田部は。 僕はいいです。 大して何もしてませんし。  
小栗 うん、まあな。  
谷田部 万が一暴れた時の補欠要員ですから。  
小栗 補欠つてわけじやないぞ。

安岡も出て行く。小栗と谷田部の二人きり。

# しんじゅうおへや

三

いいですか？

いつもこうなんですか？

なんなんですか、この

明日、いや、日付変わって今日か。今

三家の死刑執行が行われるんでは?  
そろそろ

いや、良くない。良くないか

疲れるよなあ。

女史傳

そう見  
る二三

谷

だよな

それが  
然つて

あまり

大

h  
?

他の  
人  
か  
？

た  
だ  
見

脇を抱

無理じ

いざれ

たから  
浦アゾン

三  
じ

杉宇良

でもい

……  
そ

動かな

谷田部

ち  
や  
ん

小栗、谷田部に背を向け、腕時計を見る。

# しんじゅうおへや ～ 第三話 彷徨 ～

三  
珍

歌  
仙  
傳  
卷  
之  
一

静寂の中、三塚孝（みづかたかし）が、第1ボタンの取れたYシャツを着て、一人つつ立っている。

時間は午前10時半頃。場所は第二話と同じ部屋のようだ、が……。

## 第三話 彷徨

三塚は第1ボタンが取れた部分を気にしながら考え込み、ひとまずトアから出て行こうとする。ドアノブに手をかけ、ドアを開くと、同時に向こう側から女が入ってくる。女は二十代後半ほどだろうか。仕事帰りのOLのような服装をしている。

三塚と女 目が合う

あ。あ。  
えつと、

ビツクリした。

あの、え？  
すいません。えーと……。

……。いいえ。  
ですか？

分かりませんって、その、勝手ですが僕はお会いしたことあると思いますが……誰です？

すいません。あなたのこと分かりません。知りません。  
そんなはず無いでしよう。だって、

だって……だって……あれ？ 忘れちゃったな……。でも、絶対会ったことがあります！

（やや怯えたように）やめて下さい。  
何も……。

問

行くつもりだったんですけど、ちょっとその前に聞きたいんです。  
行かないんですか？

……は？

すいません、大声出してしまって。ただ、気がついたらこんなところに居たつて言うか、ち  
ょっと自分でも理解できていなくて、

女 三 女 三 女 三 女 三 女 三 女



# しんじゅうおへや ～ 第三話 徘徊 ～

何もありませんから。以前から、何もありません。  
……どう思うかだけ教えてくれればいいんだ。率直な意見を。いや、感想  
立派にやつてると思いますよ。刑務官としての誇りというんですか？  
……立派にやつてると思いますよ。刑務官としての誇りというんですか？  
誇りというか……気持ちが強すぎるような気もするんだが、俺は。  
刑務官として必要なことなんじやないですか？ 気持ちを強く持つのは。  
それもそうだが……同僚や俺につつかかつてくる時もあつてな。  
そこらへんはもう少し経験を積めば、バランスとれるようになるんじやな  
……だといいんだが。  
(鼻で笑い)……。  
ん？  
私なんかがバランスだとか言うのはおかしいですけどね。  
……いや、ご意見ありがとうございます。  
ああ、ありがとうございます。  
意見じやないですよ。あまり参考にしないで下さい。  
……。  
小栗、突然物思いに耽り出したように、ただほんやりとそこに  
……小栗さん？  
ん？  
まだ何かありましたか？  
ん、あ、えーとな、ほら、この前頼まれた本なんだけどな。続編探してく。  
ああ、ありがとうございます。  
いや、見つかんなかったんだ。  
そうですか……。  
いや見つかんなかったつちゅうか、まだ入荷してないつてよ。店の人間に聞  
ああ……いえ、こちらこそすいません。わざわざ。  
ごめんな。  
すいません。いつ入るつて言つてました？  
ん？ んーと……なんか売切れてていつ入つてくるか分からんいらしい。  
来週には入りますか？  
さあ。  
来月になりますか？  
分からんな。俺に聞かれても。  
……んー。図々しくて申し訳ないんですけど。  
なんだ？  
良かつたら予約というか、取り寄せしてもらえませんか？  
取り寄せか。  
どうしても続きが読みたいんです。  
そんなに面白いのか？  
続きが気になるんです。  
……分かつた。  
すぐじやなくともいいんです。ついでの時で。本屋に立ち寄つたときでい  
いや、今日また行つてきて頼んでくる。  
ありがとうございます！  
そんなに面白いんだつたら、読み終わつたら俺に貸してくれ。  
はい(笑)  
何が面白いんだ、そんなに。  
うーん、そうですね。何がって、  
説明できなか？  
簡単に言うとですね、主人公が自分に似てる感じがするんですよ。  
ほう。どの辺が。  
どの辺。んー……。  
雨足がまた強くなる。三塚、シャツの第一ボタンの部分を触り  
あ、ボタン、取れかかつてる。

来月になりますか？

分からぬ。俺に聞かれても。  
……ん。図々しくて申し訳ないんですが。  
なんだ？

良かつたら予約というか、取り寄せしてもらえませんか？

どうしても続きを読みたいんです。

そんなに面白いのか？

続きをが気になるんです。

……分かった。

すぐじゃなくともいいんです。ついでの時で。本屋に立ち寄つたときでいいんです。

いや、今日また行つてきて頼んでくる。

ありがとうございます！

そんなに面白いんだつたら、読み終わつたら俺に貸してくれ。

はい（笑）

何が面白いんだ、そんなに。  
うーん、そうですね。何がつて、  
説明できないか？

簡単に言うとですね、主人公が自分に似てる感じがするんですよ。  
ほう。どの辺が。  
どの辺。ん……。

雨足がまた強くなる。三塚、シャツの第一ボタンの部分を触り、  
取れかかってる。

しんじやうおへや  
～ 第三話 彷徨 ～

三塚 小栗 三塚  
ああ……。  
何年前だろう？

先ほど消えた女が、どこからともなく現れる。  
三塚はそれに気づき、

小栗三塚女三塚  
ん？ ねえ、 あ。 あ。  
ちよつと、

三塚、の方へ寄つていこうとするが、女はまた逃げるよう走つて行き、消え  
た。  
と、同時に雨が止む。

あれ？ どこ行つた？  
それじや、行くわ。  
え？

静かにしててくれよ。

はい。あ、小栗さん。

ん？

ちよつと聞きたいことが。  
何だ？

……あの、

ちよつと聞きたいことが。

と、いつの間にかスースツ姿の男・佐久間が現れていた。

小栗、ドアから去る。

佐久間は部屋の中を眺めながらプラプラと歩く。  
「だけど、思ったより広いですね、部屋。」

# しんじゅうおへや ～ 第三話 彷徨 ～

